

平成 13 年度 灘のけんか祭り

松原八幡神社秋季例大祭



~ 中 村 ~

14日・15日 - 宮入

只今より、中村と中村屋台の新調に至るまでの経過を説明致します。

中村という村名は、近世初頭の検地と村切りによって新しい行政村が発足した際、その村域の中核となった旧集落中村の名称を採ってそのまま新村名としたものである。すなわち、中村の村名は今から約千年前の荘園時代、当地の中核部に集落が位置していたからということで、名づけられたものが現在に至っている。戸数約1300軒で北に開けた村である。

さて、今年の「まつり」を執行するにあたり、屋台の屋根の隅木に割れが入り修復不能の状態となり、役員会において屋台は「中村の住民の宝」であるとの認識を深めていただく為に、23年振りに屋台新調を中村全町あげて行いました。終戦後は、昭和39年の東京オリンピックの年に、五輪マークの露盤で話題を呼び、昭和54年に、日本最高級の銘木といわれる、尾州ヒノキで完成した時のあまりの美しさに、白木のまま3年間練って話題を呼んだものである。本年度の屋台は製作途中で、平成15年度に漆を塗り総仕上げの予定であります。皆さん、新調された中村屋台と気迫溢れる屋台練りの醍醐味を楽しんでください。

また、中村には屋台に関する資料館と、白浜の固寧倉(こねそくら)があり、文化6年(1809)姫事藩坂井家により、米麦の貯蔵庫として建てられ以来約200年痛みが激しく、11年度、住民の要望により全面改修がおわり、立派に出来上がりました。又の機会にご覧下さい。以上で中村の紹介を終わります。

灘中放送委員「」でした。有り難うございました。

15日 - 広畠

只今より、中村と中村屋台の新調に至るまでの経過を説明致します。

本年の”まつり”を執行するにあたり、屋台の屋根の隅木に割れが入り修復不能の状態となり、役員会において屋台は「中村の住民の宝」であるとの認識を深めていただく為に、23年振りに屋台新調を中村全町あげて行いました。終戦後は、昭和39年の東京オリンピックの年に、五輪マークの露盤で話題を呼び。昭和54年に、日本最高級の銘木といわれる、尾州ヒノキで完成した時のあまりの美しさに、白木のまま3年間練って話題を呼んだものである。

もう一つの見所は、屋台の屋根の紋所であり、五七の桐です。この紋は、八幡神社の紋章でもあり、二の丸、神輿の紋でもあります。中村の寺家土(じけざむらい)の古事に因んで、使用され。これからも心のよりどころとなって行くでしょう

また、本年度の屋台は製作途中で、平成15年度に漆を塗り総仕上げの予定であります。皆さん、新調された中村屋台と気迫溢れる屋台練りの醍醐味を楽しんでください。

また、中村には屋台に関する資料館と、白浜の固寧倉(こねそくら)があり、文化6年(1809)姫事藩坂井家により、米麦の貯蔵庫として建てられ以来約200年痛みが激しく、11年度、住民の要望により全面改修がおわり、立派に出来上がりました。又の機会にご覧下さい。以上で中村の紹介を終わります。

灘中放送委員「」でした。有り難うございました。